

日本角膜学会 年次報告書

# ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

PHOTO REPORT

## 角膜カンファランス2020 体験記

角膜カンファランス2021に  
ようこそ

学術奨励賞受賞者  
喜びのコメント





日本角膜学会 年次報告書

# ANNUAL REPORT OF JAPAN CORNEA SOCIETY

Vol. 24



**3… 理事長挨拶**

東邦大学  
堀 裕一

**5… 角膜カンファランス(第44回日本角膜学会／第36回日本角膜移植学会)  
2020を主催して**

日本大学医学部視覚科学系眼科学分野  
山上 聡

**6… 角膜カンファランス2021によるこそ**

愛媛大学眼科  
白石 敦

**7… 角膜カンファランス過去開催一覧表／学術奨励賞受賞者一覧表**

**10… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞1994～2020年度受賞者一覧表**

**14… 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞者喜びのコメント**

広島大学  
Yunialthy Dwia Pertiwi (2019年度 内田賞受賞)  
獨協医科大学  
宮島 大河 (2019年度 北野賞受賞)  
東京歯科大学市川総合病院眼科  
山口 剛史 (2019年度 眞鍋賞受賞)

**17… 日本角膜学会 会則**

**18… 理事会／評議員会議事録など**

# 理事長挨拶



東邦大学  
堀 裕一

角膜学会年次報告書Vol.24をお届けいたします。2020年はCOVID-19で明け暮れた1年であり、会員の皆様も生活スタイルや仕事の仕方、様々な考え方が180度変わったことと思います。日本角膜学会も今年は色々なことがありました。会員の先生方をはじめ、理事・監事・評議員の先生方のご協力により、今年も何とか無事に終わることができそうです。本当にありがとうございました。この場を借りて日本角膜学会の1年を振り返ってみたいと思います。

2020年の角膜カンファランスは、山上 聡先生（日本大学）を学会長として、2月27日（木）から2月29日（土）まで東京ドームホテルで行う予定でした。しかしながら開催の少し前からクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」号における集団感染や、国内で感染経路が不明なCOVID-19患者が確認され、国内の様々なイベント開催の可否が議論されるようになりました。山上会長もギリギリまで各方面の情報を収集され、最終的に「通常開催」ではなく「Web開催」とすることに決定されました。山上会長も苦渋の選択だったと思いますが、今から考えますと正しい選択だったと思います。眼科領域の学会のなかでは、この角膜カンファランス2020が、初めてのWeb開催となり、4月15日～5月11日まで視聴することができました。予想を上回る多くの先生方にご参加いただき、成功裡に終了する

ことができました。困難のなか、学会を成功裡に開催していただきました山上 聡教授、事務局長の崎元 暢先生、日本大学眼科の医局員の先生方、関係各位に日本角膜学会を代表して厚く御礼申し上げます。

今年度（2020年）の日本角膜学会理事会（2月26日（水））および日本角膜学会評議員会（2月27日（木））は、感染対策を十分に行いながら、東京ドームホテルにて予定通り何とか無事対面で行うことができました。その頃は、ちょうど新型コロナウイルスの感染拡大に対して国民が不安と恐怖に襲われ始めている時期でありました。理事会、評議員会では、この未知のウイルスに対して我々眼科医が実際の診療の場でどのように対処していくべきかの議論が行われました。山上会長には、角膜カンファランス2020のなかで、COVID-19に関する緊急シンポジウムを企画していただき、日本感染症学会理事であり、東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症分野の四柳 宏先生にご講演していただけることになりました（新型コロナウイルス（COVID-19）—眼科診療の現場で知っておきたいこと—）。四柳先生は、奥様が眼科医でいらっしゃる関係もあり、大変お忙しいなか、我々眼科医向けのご講演をなさってくださいました。本講演のスライドは日本角膜学会HPの会員専用ページで現在も視聴可能です。皆様、是非ともご覧ください。

ださいませ。緊急シンポジウムの開催につきましては、外園千恵先生(京都府立医科大学)、佐々木香る先生(関西医科大学)に大変なご尽力をいただきました。四柳先生をはじめ、皆様にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

学術関係についてですが、昨年の年次報告書の挨拶で、「日本角膜学会のさらなる国際化」をうたっておりまして。2020年5月にボストンで行われる予定だった世界角膜学会(World Cornea Congress 2020)では日本角膜学会がオーガナイズするシンポジウム「Progress in Corneal Regenerative Medicine(角膜再生医療の進歩)」が企画され、日本を代表する6名の角膜研究者に発表いただく予定でしたが、残念ながら中止となってしまいました。また、12月にはアジア角膜学会(ACS2020、12月2日～4日、西田幸二会長)が大阪で開催される予定でしたが、同様にCOVID-19の感染拡大により延期になりました。現在、一時的に日本の角膜研究のプレゼンスを世界に示す機会は減ってしまっていますが、このまま守りの姿勢ではいけないと思います。これからも常に世界を見据えて攻めの姿勢で学術活動を進めていきたいと思っています。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。特に、延期となったアジア角膜学会(ACS2020)は、バーチャル学会として、2021年4月28日(水)、4月29日(木)の両日で開催されます。日本のプレゼンスを世界に発信できるまたとないチャンスです。特に若い先生方には積極的に学会に参加していただき、国際的な活躍をしていただきたいと思っています。

現在、日本角膜学会が行っている研究や事業として、大きく二つがあります。一つ目は角膜疾患に対するAI研究です。AIは今後の医療を考える上で避けて通れないものです。特に眼科は多くの画像

データを扱う診療科であり、AIの活躍できる場所が多いと思います。現在、評議員の先生方の施設を中心に細隙灯顕微鏡写真のデータを集める作業が始まっています。数年後には素晴らしいデータがお示しできると思います。二つ目の事業としては、マイボーム腺機能不全(MGD)の診療ガイドライン作成が挙げられます。2010年に天野史郎先生を中心に閉塞性MGDの定義と診断基準が作成されましたが、今回は日本角膜学会とドライアイ研究会を中心にその改定版を作るとともに、さらにガイドラインも作成することになりました。ガイドラインは、今後の保険診療にも大きくかかわってきます。薬剤やデバイスなどの新しいMGDの治療法が出始めている今、我々が行うべき事業であると思います。皆様、ご協力の程よろしく願いいたします。

さて、毎年若手研究者が選ばれる日本角膜学会学術奨励賞ですが、第17回日本角膜学会学術奨励賞は、慶応義塾大学の内野美樹先生(研究題名「日本人におけるドライアイ治療自己中断の危険因子」と、東京大学の豊野哲也先生(研究題名「角膜混濁性疾患の病態解明とその治療法の探索」)が選ばれました。お二人とも以前から同様の研究を長年行っておられ、素晴らしいデータをたくさん出されておられます。お二人の今後の益々のご発展を祈念いたします。本受賞講演は、角膜カンファレンス2021(Web開催、愛媛大学・白石 敦会長)でご発表いただく予定です。本当におめでとうございました。

以上、2020年の報告でした。今年一年、本当にありがとうございました。これからも日本角膜学会は会員の先生方とともに頑張っていく所存です。皆様、2021年もコロナに負けずに楽しく角膜研究をやっていきましょう！



# 角膜カンファランス

(第44回日本角膜学会／第36回日本角膜移植学会)

## 2020を主催して



日本大学医学部視覚科学系  
眼科学分野

山上 聡

もともと角膜カンファランス2020は、令和2年2月27日～29日までの3日間東京ドームホテルで予定されていましたが、令和2年4月15日～5月10日まで角膜カンファランス(第44回日本角膜学会総会・第36回日本角膜移植学会)をWEBで開催させていただきました。2月の学会予定の前の週まで学会はほぼ普通に行われていたもので、当初はその運の悪さをただただ嘆いておりました。

しかし実際に行ってみますと、学会に参加する従来のやり方が本当に必要なのか疑問が湧いて来るほどの多くのメリットがあることがわかりました。WEB上で発表を拝見してみますと、パソコン画面でみるパワーポイントは大変見やすく、自分のペースでみていけるのが大きなメリットであると思いました。また例年行っている優秀ポスター賞の発表に加えて、優秀口演賞、さらに最優秀口演賞、准最優秀口演賞などを角膜学会の評議員や今回の学会の座長をお願いしていた先生方に選んでいただくなどの企画も追加できました。

実施してみますと参加者、主催者側のメリットとしては、

1. 交通費、宿泊費が不要
  2. 会場までの移動時間がない
  3. 発表が見やすい(音声を入れると完璧)
  4. ポスターも座ってみることが可能
  5. 自分のペースで視聴可能
  6. 会場費が不要で開催費用が大幅減
  7. 将来は参加費の値下げが可能
- などがあり、逆にデメリットとしては

1. 論文にしていない内容が記録されることの懸念
  2. いつでも見ることができるのでかえって見ない可能性
  3. 質問ができない(メール対応システムで解決は可能)
  4. 人と人との交流ができない
- などが考えられます。

今回は、緊急避難的にWEB学会開催を行いました。しかし今後は従来の学会やWEB開催の両方のメリットを取り入れながら行われる新しいかたちの学会、たとえば広く周知したい教育的な講演や特別講演などはWEBでも見られるようにするなどの新しい形の学会の方法も考えられます。角膜カンファランス2020やその後もいくつもの学会で行われているWEB形式の学会開催は、変わりゆく今後の学会の一つの転換点ではないかと今は考えています。

最後になりますが、WEB開催への移行に伴いご助言いただきました評議員の先生方、突然のお願いにもかかわらず優秀賞の選出にご協力いただきました座長の先生方、WEB開催での発表にご対応いただきました演者の先生方をはじめ多くの先生方の協力で開催することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

# 角膜カンファランス 2021によろこそ



愛媛大学眼科  
白石 敦

2021年の角膜カンファランス(第45回日本角膜学会総会・第37回日本角膜移植学会)を愛媛県松山市、愛媛県民文化会館で開催させていただき予定でしたが、COVID-19感染の終息が見通せないことより、WEB開催とさせていただきことといたしました。これで角膜カンファランスは2年続けてのWEB開催となります。現在はwithコロナの生活様式に変化しており、元の生活に戻ることはないといわれています。学会も同様に全く以前の学会の姿に戻ることはないと思われます。常に眼科学会のフロントランナーであった角膜カンファランスにとってこれを好機ととらえて、新たな学会形式を提案する良い機会としたいと思います。

角膜カンファランスは、上下関係に関係なく自由にディスカッションができるという素晴らしい伝統があります。WEBにおきましても、この伝統は受け継いで濃厚な討論ができるような形式を考えております。また、学会賞などの表彰も多く取り入れる予定としておりますので、奮ってご参加のほどよろしくお願いたします。

特別講演には、ノーベル賞の大隅良典先生をお迎えすることができました。「酵母から見てきたオートファジー、細胞内リサイクリングシステム」のタイトルでご講演をしていただきます。大隅先生は、若い研究者の発掘・教育にとっても熱心に取り組んでおられ、特別講演でも角膜を志す若手研究者への熱いメッセージをいただけることと思われま。スタッフもできる限りのご協力をさせていただき、WEBならではの素晴らしい特別講演を実現でき

るよう準備しています。

シンポジウムでも、「角膜研究のNew Wave」として若手の研究者に現在取り組んでいる研究について発表していただく予定です。全国の若い角膜研究を目指す研究者がお互いに交流を深め、刺激しあえるような場になればと期待しています。新型コロナに席卷されている状況ですが、感染症分野における診断法の進歩には目覚ましいものがあり、もう一つのシンポジウムでは「角膜感染症診断法のNew Wave」として、感染症のスペシャリストに最新の感染症診断法について議論していただく予定です。

WEB開催となりましても、これまでの角膜カンファランスと同様、角膜の研究・臨床を発展させていけるような学会を開催できるよう努めてまいりますので、是非ともご参加のほどよろしくお願申し上げます。

## 角膜カンファランス過去開催一覧表

回数	日時	場所	世話係	演題数	
1	1977年2月26日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	16
2	1978年2月25日	関電ビル 2F 関電会館	大阪	眞鍋禮三	10
3	1979年2月17日	霞が関ビル 33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	15
4	1980年2月24日	大阪中之島センタービルロイヤル NCB 会館 3F 会議室 3号	大阪	眞鍋禮三	21
5	1981年3月1日	霞ヶ関ビル33F 東海大学校友会館	東京	眞鍋禮三	28
6	1982年5月20日	国立京都国際会館	京都	眞鍋禮三	35
7	1983年5月19日	国立京都国際会館	京都	眞鍋禮三	35
8	1984年2月26日	イカリビル 2F 大ホール	大阪	眞鍋禮三	40
9	1985年2月16日、17日	日光金谷ホテル	栃木	大原國俊	56
10	1986年2月28日、3月1日	八幡平リゾートホテル	岩手	田澤 豊	57
11	1987年2月13日、14日	大磯プリンスホテルプリンスホール	神奈川	金井 淳	55
12	1988年2月19日、20日	宝塚ホテル	兵庫	眞鍋禮三	78
13	1989年2月24日、25日	北海道大学学術交流会館	札幌	松田英彦	84
14	1990年2月1日、2日	東京ベイヒルトンインターナショナルホテル	東京 千葉	北野周作 崎元卓	109
15	1991年2月8日、9日	筑波大学大会館	茨城	本村幸子	114
16	1992年1月31日、2月1日、2日	パシフィコ横浜	神奈川	増田寛次郎	139
17	1993年1月2日、23日、24日	白浜・ホテルシーモア	和歌山	大鳥利文	157
18	1994年2月18日、19日、20日	すみだリバーサイドホテル浅草ビューホテル	東京	宮永嘉隆	188
19	1995年2月9日、10日、11日	都ホテル	京都	木下茂	180
20	1996年2月16日、17日、18日	恵比寿ガーデンプレイス内ザガーデンホール	東京	小口芳久	187
21	1997年2月7日、8日、9日	愛媛県民文化会館	愛媛	大橋裕一	183
22	1998年2月13日、14日、15日	賢島 宝生苑	三重	杉田潤太郎	204
23	1999年2月11日、12日、13日	宇部全日空ホテル	山口	西田輝夫	175



回数	日時	場所	世話係	演題数	
24	2000年2月17日、18日、19日	東京ベイホテル東急	千葉	坪田一男	184
25	2001年2月8日、9日、10日	りんくう国際会議場全日空ゲートタワーホテル大阪	大阪	下村嘉一	202
26	2002年2月21日、22日、23日	パシフィコ横浜	神奈川	澤 充	208
27	2003年2月20日、21日、22日	軽井沢プリンスホテル西館	長野	村松隆次	200
28	2004年2月19日、20日、21日	米子コンベンションセンター(ビッグシップ)	鳥取	井上幸次	237
29	2005年2月17日、18日、19日	徳島プリンスホテル	徳島	塩田 洋	201
30	2006年2月9日、10日、11日	東京ビッグサイト TFT ホール	東京	大鹿哲郎	200
31	2007年2月9日、10日、11日	ワールドコンベンションセンター	宮崎	宮田和典	220
32	2008年2月28日、29日、3月1日	東京ベイホテル東急	東京	天野史郎	221
33	2009年2月19日、20日、21日	ザ・リッツ・カールトン大阪	大阪	前田直之	216
34	2010年2月11日、12日、13日	仙台国際センター	仙台	西田幸二	198
35	2011年2月17日、18日、19日	品川プリンスホテル	東京	高橋 浩	200
36	2012年2月23日、24日、25日	ホテルニューオータニ	東京	山口達夫	214
37	2013年2月14日、15日、16日	和歌山県立町立総合体育館・白浜健康館	和歌山	雑賀司珠也	229
38	2014年1月30日、31日、2月1日	沖縄コンベンションセンター	沖縄	島崎 潤	264
39	2015年2月11日、12日、13日	高知市文化プラザかるぼーと	高知	福島敦樹	227
40	2016年2月18日、19日、20日	軽井沢プリンスホテルウエスト	長野	清水公也	232
41	2017年2月16日、17日、18日	アクロス福岡	福岡	内尾英一	225
42	2018年2月15日、16日、17日	グランドプリンスホテル広島	広島	近間泰一郎	231
43	2019年2月7日、8日、9日	ウエスティン都ホテル京都	京都	外園千恵	232
44	2020年4月15日～5月10日	Web		山上 聡	182(138)

## 学術奨励賞受賞者一覧表

年度	回数	受賞者	所属
2003年	第1回	榛村重人	東京歯科大
		中村隆宏	京都府立医大
2004年	第2回	堀 純子	日本医大
		川崎 諭	京都府立医大
2005年	第3回	加治優一	筑波大臨床医学系
		小泉範子	京都府立医大
2006年	第4回	川北哲也	東京歯科大市川総合病院
		福田 憲	山口大
2007年	第5回	山田潤	明治鍼灸大
		小林 顕	金沢大
2008年	第6回	臼井智彦	東京大
		平岡孝浩	筑波大臨床医学系
		堀 裕一	大阪大
2009年	第7回	有田玲子	東京大、伊藤医院
		井上智之	大阪大
2010年	第8回	川島素子	慶應大
		森重直行	山口大
2011年	第9回	奥村直毅	京都府医大
		柳井亮二	山口大
2012年	第10回	羽藤 晋	慶應大
		中司美奈	京都府医大
2013年	第11回	崎元 暢	日本大
		鈴木 崇	愛媛大
2014年	第12回	高 静花	大阪大
		平山雅敏	慶應大
2015年	第13回	大家義則	大阪大
		山口剛史	東京歯科大
2016年	第14回	北澤耕司	京都府医大
		林 竜平	大阪大
2017年	第15回	猪俣武範	順天大
		内野裕一	慶應大
2018年	第16回	難波広幸	山形大
2019年	第17回	内野美樹	慶應大
		豊野哲也	東京大



# 内田賞・北野賞・眞鍋賞受賞 1994～2020年度受賞者一覧表

## ★1994年(第18回角膜カンファレンス・第10回日本角膜移植学会)

内田賞	西川都子(近畿大)	インターロイキンによる実験的角膜炎	
北野賞	細見雅美(神戸海星病院)	角膜潰瘍に対するヒアルロン酸点眼薬の効果	
眞鍋賞	木佐貫操(神戸大)	Werner症候群の角膜における細胞増殖能についての組織学的検討	

## ★1995年(第19回角膜カンファレンス・第11回日本角膜移植学会)

内田賞	近藤順子(眼科杉田病院)	強角膜片保存中の内皮細胞検査(アイバンク用スペキュラーマイクロスコープ)	角膜学会誌第1巻184頁
北野賞	吉田裕司(東京工芸大)	生体眼での複屈折効果(その1)-角膜形状応用力状態の計測-	角膜学会誌第1巻187頁
眞鍋賞	長田さやか(金沢大)	アトピー性皮膚炎患者の角膜形状の検討	角膜学会誌第1巻189頁

## ★1996年(第20回角膜カンファレンス・第12回日本角膜移植学会)

内田賞	吉野真未(慶應大)	骨髄移植に伴うドライアイ	眼紀第48巻453-455頁、 角膜学会誌第2巻158頁
北野賞	渡辺牧夫(高知医大)	約2年間のソフトコンタクト連続装用による細菌性角膜潰瘍の一例	眼紀47巻1054-1058頁、 角膜学会誌第2巻75頁
眞鍋賞	新妻卓也(女子医大第二)	PRK後の不可逆性上皮混濁の組織変化	眼紀第47巻1464-1467頁、 角膜学会誌第2巻56頁

## ★1997年(第21回角膜カンファレンス・第13回日本角膜移植学会)

内田賞	光本拓也(佐賀医大)	角膜細胞の新しい単離培養法(短冊法)の試み	角膜学会誌第3巻137頁
北野賞	木村内子(東芝病院)	幼児角膜を用いた全層角膜移植の長期予後ラット全層角膜移植モデルにおけるドナー	角膜学会誌第3巻139頁
眞鍋賞	皆本敦(広島大)	角膜に対する紫外線照射の効果	角膜学会誌第3巻146頁

## ★1998年(第22回角膜カンファレンス・第14回日本角膜移植学会)

内田賞	内田幸男選考委員ご逝去につき今回は北野賞・眞鍋賞のみとし、各2名ずつ選ぶことになった。		
北野賞	①渡辺仁(大阪大)	ケラトエピテリン関連角膜変性症の遺伝子異常の違いによる臨床所見の相違	Ophthalmology、 角膜学会誌第4巻113頁
	②光本拓也(佐賀医大)	角膜内皮の修復;細胞外基質と成長因子を関連させた内皮修復の解析法	角膜学会誌第4巻115頁
眞鍋賞	①足立和加子(京都府医大)	ヒト角膜上皮に特異的な新規カテプシンのクローニング	角膜学会誌第4巻113頁
	②佐藤敦子(日本大)	自動角膜厚測定装置(SP-2000P)の臨床的評価	眼紀第50巻18-21頁

## ★1999年(第23回角膜カンファレンス・第15回日本角膜移植学会)

内田賞	新田卓也(北海道大)	細菌アレルギーの関与する慢性角結膜炎に対するテトラサイクリン内服療法	角膜学会誌第5巻105頁
北野賞	川崎諭(京都府医大)	眼表面疾患慢性期における結膜潤滑細胞	角膜学会誌第5巻102頁
眞鍋賞	平野耕治(名古屋大)	光学的干渉断層計(OCT)の角膜疾患診断への応用について	角膜学会誌第5巻111頁



★2000年(第24回角膜カンファランス・第16回日本角膜移植学会)

内田賞	村戸ドール(神戸海星病院)	エキシマレーザー治療の角膜切除術後の眼表面所見の原疾患別検討	角膜学会誌第6巻98頁
北野賞	弓狩純子(女子医大)	アトピー性角膜炎の角膜上皮障害における好酸球とエオキタシンの関与	角膜学会誌第6巻80頁
眞鍋賞	八木明美(静岡県アイバンク)	静岡県アイバンクの幹旋に関する統計調査(1982-1999)	角膜学会誌第5巻111頁

★2001年(第25回角膜カンファランス・第17回日本角膜移植学会)

内田賞	Zheng Xiaodong(愛媛大)	アカントアメーバはヒト角膜上皮細胞アポトーシスを誘導する	角膜学会誌第7巻123頁
北野賞	月山純子(近畿大)	角膜上皮創傷治癒におけるプロスタグランジンの作用機序について	角膜学会誌第7巻123頁
眞鍋賞	加賀谷文絵(東京大)	ヒト羊膜上皮培養上清は角膜移植後の血管新生を抑制する	角膜学会誌第7巻128頁

★2002年(第26回角膜カンファランス・第18回日本角膜移植学会)

内田賞	中川裕子(徳島診療所)	眼圧上昇を伴う重篤な角膜ブドウ膜炎を呈したムンプス	角膜炎の1例角膜学会誌第8巻35頁
北野賞	尾藤洋子(京都府医大)	結膜弛緩症の多数例に対する涙液メニスカス再建術の検討	角膜学会誌第8巻80頁
眞鍋賞	藤田聡(東京医大)	レシピエント角膜上皮を温存した角膜移植術	角膜学会誌第8巻87頁

★2003年(第27回角膜カンファランス・第19回日本角膜移植学会)

内田賞	大宮勝美(羽曳野病院)	両眼性・多発性の角膜上皮嚢胞を示した1症例	角膜学会誌第9巻87頁
北野賞	大野健治(国立東京医療センター)	病状説明でのフルオレセイン・ブルーフリーシステムの有用性	角膜学会誌第9巻71頁
眞鍋賞	遠藤健一(京都府医大)	羊膜上皮基底膜におけるIV型コラーゲン $\alpha 5$ 鎖の発現-角膜上皮基底膜との類似性-	角膜学会誌第9巻90頁

★2004年(第28回角膜カンファランス・第20回日本角膜移植学会)

内田賞	茂田今日子(銚子市立総合病院)	角結膜疾患患者における涙液中ケモカインの検討	角膜学会誌第10巻158頁
北野賞	酒井理恵子(自治医大)	ヒト角膜内皮細胞に高発現するCESP-1の特異抗体作製と細胞内局在	角膜学会誌第10巻152頁
眞鍋賞	前田政徳(近畿大)	結膜弁被覆を併用した人工角膜手術	角膜学会誌第10巻170頁

★2005年(第29回角膜カンファランス・第21回日本角膜移植学会)

内田賞	鴨居瑞加(立川共済病院)	涙液分泌低下型ドライアイにおける涙液蒸発率と涙液油層状態	角膜学会誌第11巻78頁
北野賞	板橋幹城(近畿大)	VVGCV, GVACVのヘルペス性角膜上皮炎への効果	角膜学会誌第11巻87頁
眞鍋賞	渡邊和誉(兵庫アイバンク)	献眼情報より臓器および組織提供に結びついた1例	

★2006年(第30回角膜カンファランス・第22回日本角膜移植学会)

内田賞	張巍(愛媛大)	Frameshift Mutationによるアシクロビル耐性角膜ヘルペスの1例	角膜学会誌第12巻109頁
北野賞	寺井典子(京都府医大)	マウス角膜の分化・成熟におけるケラチン12の発現	角膜学会誌第12巻97頁
眞鍋賞	諸星計(鳥取大)	CCR5・CXCR3欠損マウスにおける角膜移植後拒絶反応の検討	角膜学会誌第12巻104頁

★2007年(第31回角膜カンファレンス・第23回日本角膜移植学会)

内田賞	林竜平(東北大)	角膜輪部上皮におけるN-cadherin発現細胞の解析	
北野賞	林孝彦(横浜市大)	マウス水疱性角膜症眼に対するアロ角膜内皮細胞移植とアロ全層角膜移植の免疫反応	
眞鍋賞	石丸慎平(獨協医大)	深部表層角膜移植【DLKP】術にて摘出された角膜の組織学的検討	

★2008年(第32回角膜カンファレンス・第24回日本角膜移植学会)

内田賞	佐藤エンリケ アダン(慶應大)	レーザー生体共焦点顕微鏡によるシェーグレン症候群 症例の涙腺炎症状態の観察	
北野賞	子島良平(宮田眼科病院)	アカントアメーバに対する薬剤感受性試験の検討	
眞鍋賞	入江真理(富山県アイバンク)	富山県アイバンクの15年の活動報告	

★2009年(第33回角膜カンファレンス・第25回日本角膜移植学会)

内田賞	三村達哉(東京大)	角膜血管新生におけるin vitroでのMT1-MMPのDecorin分解	
北野賞	長谷川美恵子(大手前病院)	フルオロキノロン耐性を示した感染性角膜潰瘍の3例	
眞鍋賞	横川英明(金沢大)	Busin グライド使用に伴う内皮障害評価－新鮮ヒト角膜を用いた実験－	

★2010年(第34回角膜カンファレンス・第26回日本角膜移植学会)

内田賞	山田直之(山口大)	フィブロネクチン由来ペプチドPHSRN点眼が著効した神経麻痺性角膜症の1例	
北野賞	竹田一徳(京都府医大)	急性期眼表面疾患に対する自己培養口腔粘膜上皮移植術の臨床成績	
眞鍋賞	田中寛(京都府医大)	眼表面疾患患者のMRSA 保菌に関する検討	

★2011年角膜カンファレンス(第35回日本角膜学会・第27回日本角膜移植学会)

内田賞	吉田悟(慶應大)	角膜実質の再生医療に向けた神経堤幹細胞のiPS細胞からの誘導	
北野賞	松永透(順天大)	リン酸基含有ハイドロゲルをデバイスとした前眼部へのTACSTD2 遺伝子導入	
眞鍋賞	中村孝夫(大手前病院)	無水晶体眼水疱性角膜症に対する角膜内皮移植	

★2012年角膜カンファレンス(第36回日本角膜学会・第28回日本角膜移植学会)

内田賞	水戸毅(愛媛大)	アカントアメーバへのphotodynamic therapy (PDT):抗アメーバ薬との併用効果の検討	
北野賞	小林剛(愛媛大)	マウス表皮細胞から形質転換した角膜上皮様細胞の免疫組織学的検討	
眞鍋賞	中川紘子(京都府医大)	同ドナーから提供を受けた2眼を使用した角膜内皮移植での角膜内皮細胞密度の経過	

★2013年角膜カンファレンス(第37回日本角膜学会・第29回日本角膜移植学会)

内田賞	伊藤吉将(近畿大・薬)	薬物ナノ粒子分散液の調製と点眼製剤としての応用性:ナノ粒子分散液の角膜傷害性評価	
北野賞	松永透(順天大)	膠様滴状角膜ジストロフィ角膜上皮細胞へのTACSTD2遺伝子導入・機能発現	
眞鍋賞	稲垣絵海(慶應大)	マウス角膜実質幹細胞の細胞移植	

★2014年角膜カンファランス(第38回日本角膜学会・第30回日本角膜移植学会)

内田賞	近間泰一郎(広島大)	非接触高倍対物レンズを用いたレーザー生体共焦点顕微鏡による病原微生物の観察
北野賞	森重直行(山口大)	角膜実質コラーゲン線維束構造の解剖学的特徴
眞鍋賞	島伸行(東京大)	角膜の曲率適合型培養ヒト角膜内皮細胞シートの有効性・安全性の評価

★2015年角膜カンファランス(第39回日本角膜学会・第31回日本角膜移植学会)

内田賞	高橋広樹(東京医科大学)	角膜内ランゲルハンス細胞の動態
北野賞	北澤耕司(京都府立医科大学/京都大学iPS細胞研究所)	CRISPR/Cas9を用いてPAX6をノックアウトしたヒト角膜上皮細胞の検討
眞鍋賞	稲富 勉(京都府立医科大学)	Descemet membrane endothelial keratoplastyにおける角膜厚と視力推移の検討

★2016年角膜カンファランス(第40回日本角膜学会・第32回日本角膜移植学会)

内田賞	田島一樹(慶應大外科・東京医大)	病原遺伝子の網羅的検索による多剤耐性緑膿菌角膜炎の病原性解析
北野賞	稲垣絵海(慶應大)	ヒト皮膚幹細胞由来の誘導角膜内皮細胞におけるポンプ機能解析
眞鍋賞	石居信人(旭川医大)	角膜内皮移植の予後に関連する因子

★2017年角膜カンファランス(第41回日本角膜学会・第33回日本角膜移植学会)

内田賞	石川 幸(大阪大)	ヒトiPS細胞由来角膜上皮細胞の長期培養
北野賞	北本昂大(東京大)	顆粒状角膜変性症に対するCRISPR/Cas9を用いた遺伝子編集
眞鍋賞	柿栖康二(東京歯大)	海外ドナー角膜の術前温度管理が角膜内皮移植術後の内皮細胞密度に与える影響

★2018年角膜カンファランス(第42回日本角膜学会・第34回日本角膜移植学会)

内田賞	成松明知(東京医大)	角膜緑膿菌感染におけるリンパ管の役割の検討
北野賞	難波広幸(山形大)	乱視ベクトル解析と10年間の経時変化:山形県コホート研究(舟形町研究)
眞鍋賞	福井佑弥(同志社大)	ブタ脱細胞化角膜シートのサンドイッチ移植法による角膜補強の有用性の検討

★2019年角膜カンファランス(第43回日本角膜学会・第35回日本角膜移植学会)

内田賞	後藤田哲史(大森日赤)	東邦大学医療センター大森病院における非外傷性角膜穿孔の原因と治療についての検討
北野賞	富田大輔(東京歯大・市川)	水疱性角膜症における涙液と前房水のサイトカインの関連性
眞鍋賞	高原彩加(舞鶴日赤)	DSAEK後に再移植を必要とした症例における角膜内皮細胞減少に関わる因子の検討

★2020年角膜カンファランス(第44回日本角膜学会・第36回日本角膜移植学会)

内田賞	Yunialthy Dwia Pertiwi(広島大)	In vivo effectiveness TONS504 --PACT on <i>Acanthamoeba</i> keratitis
北野賞	宮島大河(獨協医大)	Role of estrogen in FECD
眞鍋賞	山口剛史(東京歯大・市川)	虹彩損傷を伴う角膜内皮細胞障害の動物モデル



## Yunialthy Dwia Pertiwi (広島大学)

### 2020年度 内田賞を受賞して

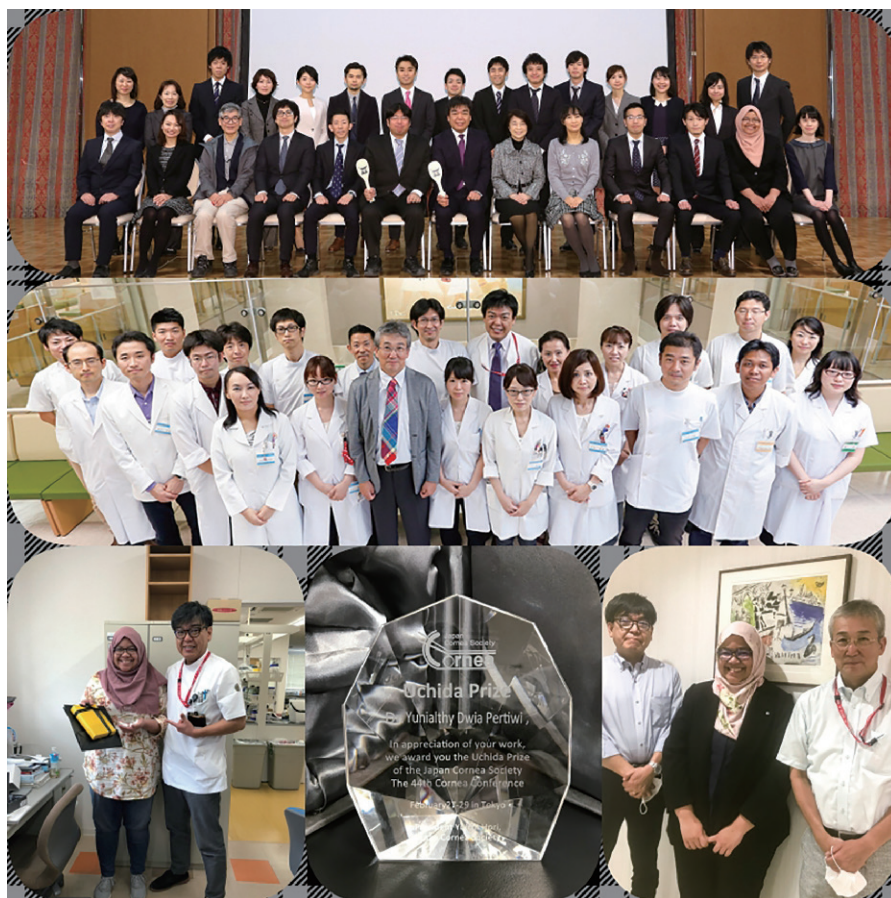


Dear professors, doctors, and colleagues

My name is Yunialthy Dwia Pertiwi, a graduate student from Hiroshima University. It is an even greater honor to have been awarded the Uchida Prize at Japan Cornea Conference 2020. I was surprised and delighted to receive this award. Thank you for your generosity in providing this award. The title is "In vivo effectiveness TONS504--PACT on *Acanthamoeba keratitis*".

I have been studied at Hiroshima University since 2016 and obtain many experiences both in research and Japanese culture. In 2018, I had a chance to participate in Japan Cornea Conference and presenting my research for the first time. It was an excellent opportunity for me as young scientists who want to expand their knowledge and, at the same time, get immersed in a different culture.

This "Uchida Prize" is very meaningful as it has strengthened my belief in myself. I have to say that my efforts payed off and that I had a wonderful experience. I would certainly make



sure that I will maintain the same level of enthusiasm and diligence in my work in the forthcoming years.

Furthermore, this award belongs equally to my teachers Yoshiaki Kiuchi sensei and Taiichiro Chikama sensei, none of this would be possible without their support. And for the great teams of Department of Ophthalmology of Hiroshima

University, that I have had the good fortune to work with at the various stages of my study.

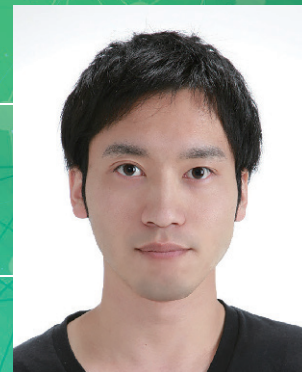
Thank you once again for this great honor.

Best regards,  
Yunialthy Dwia Pertiwi



# 宮島 大河 (獨協医科大学)

## 2020年度 北野賞を受賞して



このたびは北野賞という名誉ある賞をいただき、ありがとうございました。

今回受賞いたしましたのは「フックス角膜ジストロフィーにおけるエストロゲンの役割」です。

2016年～2019年まで、獨協医科大学眼科学講座の妹尾教授の御厚意でボストンのウラ・ジャクナス研究所に留学させていただきました。今回はその時のメインテーマであるフックス角膜ジストロフィーにおける女性優位性に関する研究を発表させていただきました。当時は実験のイロハも全くわからない状態でボストンに行き、研究室の仲間やボスにすべて助けてもらいながらこのテーマに取り組みました。全く先が見通せず、一生終わらないかとも思っていたのですが、数多くの仲間のサポートやボスの

愛のある指導のおかげでなんとか形にすることが出来ました。研究を通して色々なことを学びましたが、一つの研究が本当に沢山の人の手により成り立っているということを知れたのは非常に貴重な経験であったと思います。

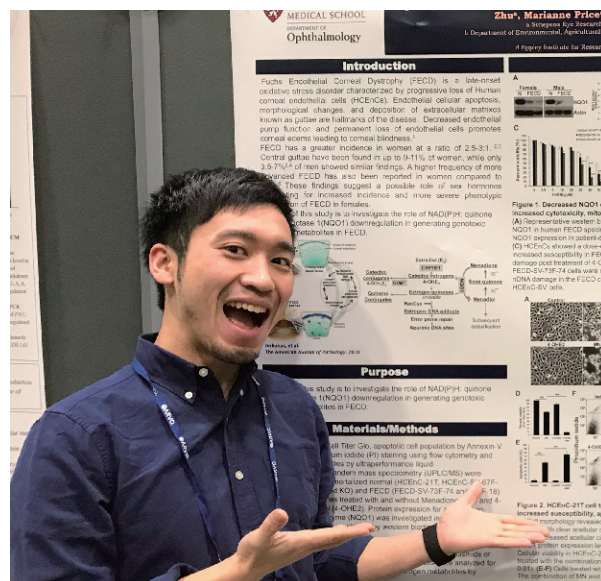
私にとって、角膜カンファランスでの発表は、日本全国の高名な角膜治療の専門家が集まる特別な学会でしたので、緊張とともに身の引き締まる気持ちで毎回参加させていただいております。そんな学会において自身の長年の研究成果を発表できただけでなく、内容を評価していただけたことはこの上ない喜びであります。まだまだ解明されていないことの多いフッ

クス角膜ジストロフィーの研究ですが、日本の高名な先生方の素晴らしい研究により多くのメカニズムがわかってきました。そんな難病の研究に少しでもかかわれたことは非常に光栄であると感じます。

最後になりましたが、これまでご指導くださいました獨協医科大学眼科学講座の妹尾正教授、留学先のウラ・ジャクナス先生、研究室を紹介していただいた慶應義塾大学眼科学教室の坪田一男教授に心より感謝申し上げます。そのほか、多くのことを学ぶ機会をくださった研究室の仲間、留学をサポートくださった医局の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



ウラ先生(中央左)と研究室仲間



ARVOにて研究成果を発表できた時の喜び

山口 剛史 (東京歯科大学市川総合病院眼科)

## 2020年度 眞鍋賞を受賞して



このたび、「虹彩萎縮に伴う角膜内皮細胞障害の動物モデル」で眞鍋賞をいただきました。臨床で、昔からICE症候群や虹彩嚢胞などに伴う水疱性角膜症では、角膜移植の予後が悪いということは知られています。また、ICE症候群などでなくても、度重なる緑内障術後や内眼手術後で虹彩損傷がひどい患者では、角膜内皮移植や全層角膜移植のグラフト生存が悪いことに気が付きました。角膜移植の予後を改善するための研究として、従来からハイリスクの拒絶反応の研究は基礎・臨床で盛んに行われてきました。しかし、角膜内皮細胞の減少については研究が少ないように感じました。角膜移植後のグラフト機能不全の一番多い原因は、角膜内皮細胞の減少による角膜内皮機能不全で、拒絶反応が二番目です。「角膜移植後に角膜内皮細胞が減るのは当たり前」という概念があったように思います。

そこで、「角膜移植後に角膜内皮細胞が減るのはなんらかの病態がある」と

仮説を立てて、その原因に、「前房水の病的変化」があるのではないかと考えました。なぜなら、虹彩と角膜内皮細胞の間には前房水があるからです。そう考えて、虹彩がボロボロの患者さんの前房水を観察しました。すると図1のように、全く色が違うのです(左が正常の前房水、右が虹彩ボロボロの患者さんの前房水)。このような前房水の中で、自分の角膜内皮細胞すらどんどん減って水疱性角膜症になったのに、他人の角膜内皮細胞が長期で生存できるのでしょうか？では、この黄色の前房水には、どんな変化が起きているのでしょうか。そこで、ボストン留学時代に研究で使っていたLuminex法でサイトカイン濃度を測定してみることにしました。すると、水疱性角膜症の患者ではサイトカイン濃度が大きく上昇していることがわかりました。更に研究を進めると、虹彩損傷の重症度や術後の角膜内皮細胞密度や減少スピードと強く相関することがわかってきました。「虹彩萎縮眼では前房水に病的変化があるのは

間違いない」。更に、がん研究会やDNAチップ研究所との共同研究から、前房水のたんぱく質や角膜内皮細胞の遺伝子の網羅的解析をしてもらおうと、サイトカイン以外に細胞代謝・補体活性・細胞老化・ミトコンドリア異常など様々な特定の病態があることが判明しました。何度も角膜移植をしてもすぐに移植片がだめになる患者を救うにはどうしたらよいのか？動物モデルが必要でした。文献を渉猟するなかで見つかったのが、今回の眞鍋賞に選んでいただいたDBA2Jというマウスです。虹彩萎縮を自然発症し、難治性内皮疾患の患者さんの目にそっくりなのです。紙面に限りがありますので、詳細を全部記載できませんが、一連の研究で角膜移植後の角膜内皮細胞の減少に特定の病態があることがわかりました(図2)。この成果は、今年Scienceの姉妹誌のScience Advancesに掲載していただくことができました。この研究はがん研究会の植田幸嗣先生、統計数理研究所の野間久史先生、市川総合病院の比嘉

一成先生、慶應義塾大学生理学教室の芝田晋介先生はじめ、多くの専門家の先生にご指導いただきました。また、ロート賞、武田科学財団、臨床薬理財団など多くの公益財団法人から研究を支援していただきました。この場を借りて、厚く深謝申し上げます。

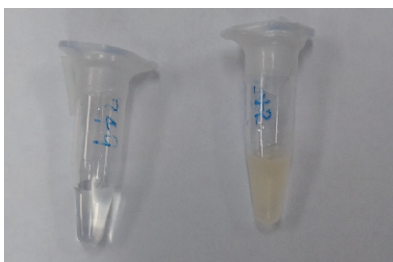


図1 何度移植してもすぐに角膜内皮細胞が減少してグラフト機能不全になる患者は、前房水の色が黄色い

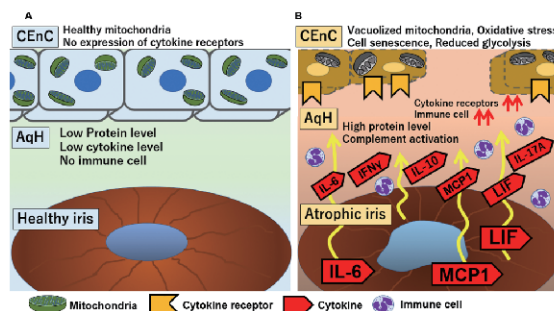


図2 虹彩萎縮と角膜内皮細胞障害の病態



# 日本角膜学会 会則

## 第1章 名称・事務局

- 第1条 本会は日本角膜学会(Japan Cornea Society)と称する。  
第2条 本会の事務局は、〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘3-6 山本ビル302号室日本眼科紀要会内に置く。

## 第2章 目的および事業

- 第3条 本会は角膜・眼表面に関する基礎的、臨床的研究を通して、これに関わる疾患の診断と治療の発展に資することを目的とする。  
第4条 本会は第3条の目的を遂行するために次の事業を行う。  
1) 学術集会の開催  
評議員会で会長を指名し、その会長が年1回の学術集会(日本角膜学会総会)を日本角膜移植学会と併催する。  
2) 学会誌の発行  
年1回発行する。  
3) 日本アイバンク協会、日本失明予防協会などの関係諸団体と協力し、活動に関係した講習会、研究、社会貢献(市民公開講座)を開催する。  
4) その他、本会の目的に沿った事業を行う。  
5) 倫理規定と利益相反(COI)を決める。

## 第3章 会員

- 第5条 会員は角膜・眼表面の研究に従事する者およびこれに準ずる者で、第6条の所定の手続きを完了したものとす。  
第6条 本会に入会を希望する者は規定の申込用紙に必要事項を記入し、会費をそえて事務局に申込み、理事会の承認を受けることとする。  
第7条 退会を希望する者は退会届けを事務局に提出しなければならない。ただし、3年以上会費払い込みのない者は自動退会とする。また、本会の名誉を著しく傷つける行為のあった者は理事会の議決を経て除名することができる。  
第8条 休会を希望する者は休会届けを事務局に提出しなければならない。  
第9条 会員は学術集会に参加し研究発表を行うことができる(筆頭発表者は会員に限る)。  
第10条 本会に法人会員を置くことができる。法人会員は理事の推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。  
第11条 本会に名誉会員を置くことができる。名誉会員は65歳以上の会員で、理事長経験あるいは10年以上の理事歴を有し、本人が承諾した者。名誉会員は評議員会に参加して意見を述べるができるが、議決には関与できない。名誉会員は理事会で推薦を受け、評議員会で承認を得なければならない。

## 第4章 評議員

- 第12条 本会に30名の評議員を置く。  
第13条 評議員は有権者の投票にて立候補者から30名選出される(選挙は2年に1回、無記名、10名~20名連記で行う)。評議員の選挙は評議員会で選出された4名の選挙管理委員によって施行される。評議員の任期は1月1日から翌年の12月31日とする。なお、有権者とは、会員のうち選挙施行年度の会費の支払いが指定された期日までに終了している者とする。

## 第5章 役員(理事および監事)

- 第14条 理事は選任年の1月1日に65歳未満である者で、評議員の

中から投票によって8名選出される。理事長は理事の投票によって選出される。理事長は理事以外の評議員の中から監事2名を指名する。

- 第15条 理事長は本会の会務を総括する。理事長の任期は1期2年とし、再任は永久に妨げる。また、理事長が任期中、何らかの事故に遭遇し、その職務を遂行できなくなった場合、理事会がその職務を代行する。理事長ならびに役員は次の理事長ならびに役員が決定するまでその職務を代行する。  
第16条 理事の職務は、会計、学術、編集、渉外・社会保険、総務、研究、記録の7分野で、各理事が各々の分野の責任者となり、理事長が総括する。  
第17条 役員は任期は、3月1日から翌々年の2月末日までの2年とし再任を妨げないが、連続2期を超えて重任することはできない。  
第18条 役員に欠員が生じた場合は、投票結果の次点者を充てる(任期は前任者の任期の残りを充てる)。  
第19条 役員、評議員は無給とする。

## 第6章 会議

- 第20条 会議は総会、評議員会、理事会とし、理事長がこれらを招集し、その議長を務める。また、理事会には、役員その他、当年度および次年度の会長が出席する。  
第21条 総会、評議員会、理事会は年1回開催されるが、理事長は必要に応じて臨時に総会、評議員会、理事会を招集することができる。  
第22条 理事会は本会の運営方針に関する重要事項について立案し、評議員会に提案するとともに、評議員会での決定事項を実行する。  
第23条 評議員会は理事会での提案事項を協議し、決定する。  
第24条 総会では、理事長が理事会および評議員会での決定事項を報告する。  
第25条 評議員会は構成員数の2/3の出席をもって成立する(委任状を認める)。  
第26条 評議員会の議事は実出席者の過半数をもって可決される。  
第27条 監事は年1回、会計監査を行い、評議員会にて報告する。

## 第7章 会費

- 第28条 本会の運営経費は会員の会費、法人会員の会費その他をもって行う。但し非営利的に運営されねばならない。  
第29条 本会の会計年度は毎年1月1日より12月31日までとする。

## 付 則

- 第1条 本会則は1995年1月1日より発効実施される。  
第2条 本会則は評議員会実出席者の2/3以上の同意により変更できる。  
第3条 本会の会員の年会費は年額5,000円とする。法人会員の年会費は年額50,000円とする。  
第4条 学術集会の会費は当該会長によって決定される。  
第5条 本会の会員の年会費を年額10,000円に変更する。  
(1996年2月16日改訂)  
(1999年2月12日改訂)  
(2010年2月11日改訂)  
(2012年2月23日改訂)  
(2015年4月9日改訂)  
(2016年2月18日改訂)  
(2018年2月15日改訂)

## 2020年日本角膜学会理事会議事録

開催日時:2020年2月26日(水)18:00~19:30

場 所:後楽園飯店

出席者:島崎潤、外園千恵、堀裕一、前田直之、宮田和典、山田昌和  
各理事

井上幸次、山上 聡各監事

オブザーバー 白石敦 事務局 三宅啓子、井上聖子 計11名

欠席者:雑賀司珠也、西田幸二各理事

議 長:堀裕一理事長

議 題:

### 1. 報告事項

#### 1. 会員の動静

堀理事長

1,225名(2020年1月31日現在)、休会者4名、留学3名

本会員 1,202名(2019年1月 1,225名 23名減)

(医師 1,114名 医師以外 88名)

1月末現在なので、今はもう少し増えている。

法人会員 19社(2019年1月 増減なし)

#### 2. 2019年度会計報告

外園理事

収入:ほぼ予算と同じくらいの収入である。

支出:印刷費の年次報告書が未払いである。研究費は使わなかった。

HP経費は通常以外使わなかった。

健全会計である。

#### 3. 第17回学術奨励賞について

堀理事長(雑賀理事)

2019年12月19日(日) 新大阪ワシントンホテルプラザにて選考委員会開催

(雑賀司珠也委員長、下村嘉一、秦野 寛、林 皓三郎、3委員

事務局三宅啓子、崎元 卓、田川義継、山口達夫3名欠席)を開催した。

応募者5名を慎重に選考し、下記の2名に決定した。

受賞者

・内野美樹(慶應義塾大学)

「日本人におけるドライアイ治療自己中断の危険因子」

・豊野哲也(東京大学)

「角膜混濁性疾患の病態解明とその治療法の探索」

#### 4. 日本角膜学会優秀ポスター賞

堀理事長(雑賀理事)

学会が中止なので、どうするか後で決めたいと思う。

#### 5. 角膜カンファレンス2019 学会報告

外園千恵会長

2019年2月7日(木)~9日にウェスティン都ホテル京都で行った。

ロクシタンの協力を得てCornea Seminar(英語セミナー)を最終日に行った。

会計は赤字にならずに終了した。皆様ご協力ありがとうございました。

#### 6. 角膜カンファレンス2020 学会について

山上 聡会長

名称:第44回日本角膜学会総会・第36回日本角膜移植学会

日時:2020年2月27日(木)~29日(土)

会場:東京ドームホテル

会長:山上 聡(日本大学)

今回の学会はできればWeb開催にしようと思う。

後日、Web開催に決定した。

#### 7. 角膜カンファレンス2021 学会について

白石 敦会長

名称:第45回日本角膜学会総会・第37回日本角膜移植学会

日時:2021年2月11日(木)~13日(土)

会場:ひめぎんホール

会長:白石 敦(愛媛大学)

テーマ:俳句 夏井いつき先生を呼ぼうと思っている。

特別講演はノーベル賞受賞者の大隅良典先生にお願いする。若手の研究者・学生なども聞けるようにしたいと思っている。

今年の日韓ジョイントシンポジウムを来年に開催していただければありがたい。

#### 8. 角膜カンファレンス2022 学会について

堀理事長(小林 顕会長)

名称:第46回日本角膜学会総会・第38回日本角膜移植学会

日時:2022年2月17日(木)~19日(土)

会場:石川県立音楽堂、ANAクラウンプラザホテル金沢

会長:小林 顕(金沢大学)

#### 9. ウェブサイト関連

前田理事

メールマガジンを送付した(2020年1月号)。

#### 10. 各種委員会

・羊膜委員会:澤 充、篠崎尚史、島崎潤、外園千恵、白石 敦、堀 裕一、西田幸二

羊膜移植バンクについて

現在のバンク一覧表を供覧した。

・羊膜移植講習会:2020年2月29日(土)日本角膜学会 中止となる。

2020年10月18日(日)日本臨床眼科学会

一度受ければよい。手術の方法はあまり変わっていない。

・外保連委員:堀 裕一(実務)、小林 顕(手術)、高村悦子(処置)、

山田昌和(検査)、麻酔担当:なし

・保険改正

角膜移植手術が2000点減って角膜内皮移植術は8000点認められた。

高次収差解析は150点認められた。

次回2年後に向けた要望について、評議員に渉外(山田理事)からアンケートをとっていただくことになった。

#### 11. 各ワーキンググループの進捗状況

・T S -1多施設スタディワーキンググループ 白石委員

眼障害ということで、202例エントリー、最終的には175例が対象となって、解析を行っている。

・角膜AI研究について

堀理事長(大鹿委員)

明日、大鹿先生が説明してください。名古屋大学、筑波大学、京都府

立医科大学、東京歯科大学と共同で知財を申請している。

前眼部OCTの断層画像から円錐角膜の診断を下せるようにしたい。

鳥取大学が感染の種類を分類するAIの開発をめざしているが、角膜

学会の感染・非感染を見分けるAIのサブシステムとして連携し、症

例写真も互いに提供する。

宮田理事(研究)に事務局になっていただくことになった。

#### 12. 日本角膜学会年次報告書の発行

堀理事長(西田理事)

2月はじめに発行し、すでに会員・各大学に送付した。

#### 13. コンタクトレンズによる重篤な眼障害合同調査

山田理事

コンタクトレンズ学会、角膜学会、角膜移植学会、眼感染症学会の4学

会で行っている。角膜学会からは10万円の負担を希望する。

#### 14. 角膜クロスリンク治療について

島崎理事

円錐角膜研究会で厚生労働省、PMDAなどに働きかけているが、日本

眼科学会、角膜学会からの要望として出す。現在は患者さんの不利益

となっている。医薬品と医療機器の両方をもっているメーカーが少

ない。ガイドラインのようなものを作成する。

## 15. その他

- ・日本角膜学会選出の総集会プログラム委員立案のシンポジウム、教育セミナー  
堀理事長(小林委員)  
角膜学会から3年に一度プログラム委員を出している。理事会、評議員会からプログラム委員に対して、シンポジウムのプログラム立案のアイデアを出せるようにすると良いと思われる。現在、日本角膜学会・日本角膜移植学会・日本涙道・涙液学会が同じグループとなっている。
- ・バンコマイシン眼軟膏について  
外園理事  
現在のバンコマイシン眼軟膏は登録制となっているが、登録制が終了になるにあたって、適正使用について注意喚起をする必要がある。

## II. 協議事項

### 1. 2020年度予算

外園理事

収入:2019年度予算とほぼ同じ。

支出:印刷費は2年分、ホームページ経費は実情に合わせた。

今回の角膜カンファレンス2020で万が一損失が出た場合の対応について議論し、万が一の場合は、学会が主体となり、援助を行うべきではないかという結論になった。

### 2. コンタクトレンズによる重篤な眼障害合同調査の分担金

山田理事

角膜学会から10万円の分担金を認めても良いという結論になった。

### 3. 学術奨励賞について

堀理事長(雑賀理事)

現在、12月に行っている選考委員会を、日本臨床眼科学会のときに選考委員会を行いたいため、応募規定の改正を議論し、毎年7月31日までに発表した論文を対象とし、応募締切を9月30日とすることとした。選考委員についても委員の交代は必要であると考えられるため、定年を決めることとなった。就任時は70歳以下で委員はそれから5年間で限度とすることになった。

### 4. 2023年学会について

杏林大学の山田昌和先生が立候補されている。

### 5. 「前眼部形成異常の診療ガイドライン」学会承認の件

山田理事

西田先生(大阪大)が班長で行っている厚生労働省の難病班のひとつである。あとから評議員メールで尋ねて、2週間くらいで返事をもらうことになった。

### 6. 今回の赤字補填について

角膜カンファレンス2020の収支について、再度議論した。今回のコロナウイルスの影響は、予想できなかったことであり、学会全体で支援することはやぶさかではないが、収支に関しては可能な限り工夫をしていただき、それでも不足が出た場合は、今回に限っては、学会で補填したいと思う。本件に関しては、明日の評議員会で評議員の意見を聞いたうえで再度、協議することとした。

## 2020年日本角膜学会評議員会議事録

開催日時:2020年2月27日(木)8:00~10:40

場 所:東京ドームホテル B1F シンシア

出席者:稲富 勉、井上智之、井上幸次、白井智彦、内尾英一、江口 洋、高 静花、小林 顕、佐々木香る、島崎 潤、白石 敦、榛村重人、鈴木 崇、外園千恵、高村悦子、近間泰一郎、堀 裕一、前田直之、宮田和典、山上 聡、山田昌和、横井則彦 計22名

オブザーバー:大家義則

事務局 井上聖子、三宅啓子 計25名

欠 席 者:天野史郎、大鹿哲郎、神谷和孝、小泉範子、雑賀司珠也、坪田一男、西田幸二、渡辺 仁 計8名

議 長:堀 裕一理事長

議 題:

本日はお集りいただきましてありがとうございます。来られていない先生がいらっしゃいますが、始めたいと思います。今回の議題につきましては以下のことを考えております。

- ①角膜カンファレンス2020の今後の予定について(Web開催の可能性、その内容、その他)
- ②角膜カンファレンス2020の延期による金銭的事項について
- ③本来の角膜学会評議員会としての報告(年次報告、収支、予算、今後の学会etc.)
- ④COVID-19についての知識共有と、眼科医としてすべきこと
- ④のCOVID-19については、新型コロナウイルス感染症と眼に関する情報について本日評議員の先生方と情報を共有し、今後我々がどのようにしていくべきか話し合いたいと思います。

山上会長:

今回は延期としましたが、Webで行いたいと思っています。できるだけ赤字を少なくしたい。専門医対策として発表する医師が多いので、日本眼

科学会に尋ねたい。二重投稿の問題もあるので、取下げた場合をどうするか。まず、通常の議題から始めたいと思います。

### I. 報告事項

#### 1. 会員の動静

理事会と同じ

#### 2. 2019年度会計報告

理事会と同じ

監事の井上です。山上先生と二人昨日監査を行った結果、適正と認めました。

#### 3. 第17回学術奨励賞について

堀理事長(雑賀理事)

理事会と同じ。授賞式は来年にまわしてもよい。

#### 4. 日本角膜学会優秀ポスター賞

堀理事長(雑賀理事)

絶対にしなければならないわけではないので、なしでもよい。続けてもよい。スピードを早くすれば取下げは少なくなるのではないかと。2割以上取下げがなければ行いたい。

#### 5. 角膜カンファレンス2019 学会報告

外園千恵会長

理事会と同じ

#### 6. 角膜カンファレンス2020 学会について

山上 聡会長

名称:第44回日本角膜学会総会・第36回日本角膜移植学会

日時:2020年2月27日(木)~29日(土)

会場:東京ドームホテル



会長:山上 聡(日本大学)

参加費を返さないということであれば赤字額も少なく済む。赤字の補填は日本角膜学会が行う、と昨日の話合いでは決まった。

7. 角膜カンファレンス2021 学会について 白石 敦会長  
名称:第45回日本角膜学会総会・第37回日本角膜移植学会  
日時:2021年2月11日(木)~13日(土)  
会場:ひめぎんホール  
会長:白石 敦(愛媛大学)  
特別講演は土曜日最後にノーベル賞受賞者の大隅良典先生にお願いしている。

8. 角膜カンファレンス2022 学会について 小林 顕会長  
理事会と同じ

9. ウェブサイト関連 前田理事  
メールマガジンを送付した(2020年1月号)。昨日も発行した。

#### 10. 各種委員会

- ・羊膜委員会:澤 充、篠崎尚史、島崎 潤、外園千恵、白石 敦、堀 裕一、西田幸二  
羊膜移植バンクについて カテゴリーⅠ 6施設、カテゴリーⅡ 3施設
- ・羊膜移植講習会:2020年2月29日(土) 日本角膜学会  
中止となった。  
2020年10月18日(日)日本臨床眼科学会
- ・外保連委員:堀 裕一(実務)、小林 顕(手術)、高村悦子(処置)、山田昌和(検査)、麻酔担当:なし  
高村先生の代わりは日本眼科学会の処置委員である堀が行う。
- ・4月からの保険収載  
角膜内皮移植術8000点、ただ、角膜移植手術が2000点マイナスとなった。高次収差解析は150点認められた。  
次回2年後に向け渉外の山田先生に4月以降に保険について皆様の希望を尋ねてほしい。

#### 12. 各ワーキンググループの進捗状況

- ・TS-1多施設スタディワーキンググループ 白石委員  
202例エントリーがあり、175例の解析を行っている。
- ・角膜AI研究について 堀理事長(大鹿委員)  
鳥取大学の宮崎先生が中心となって行ったものとは企業が異なる。研究担当理事の宮田委員のところを窓口としたい。  
パテント:名古屋大学、筑波大学、京都府立医科大学、東京歯科大学  
20施設になると、IRBをとらなければならない。

12. 日本角膜学会年次報告書の発行 堀理事長(西田理事)  
理事会と同じ

13. コンタクトレンズによる重篤な眼障害合同調査 山田理事  
厚生労働省からの依頼で、日本眼科学会より、日本コンタクトレンズ学会、日本角膜学会、日本角膜移植学会、日本眼感染症学会の4学会で行うようにとのことある。  
角膜学会に10万円を負担してほしい。  
認められた。

14. 角膜クロスリンク治療について 島崎理事  
円錐角膜研究会で厚生労働省・PMDAなどに働きかけているが、患者さんの不利益となっている。研究会で総説として日本眼科学会誌に出して、それを踏まえて角膜学会、日本眼科学会で申請するとよい。

#### 15. その他

- ・日本角膜学会選出の総集会プログラム委員立案のシンポジウム、教育セミナー 小林委員  
125回日本眼科学会総会  
オキュラーサーフェス
- ・バンコマイシン眼軟膏について 外園理事  
2009年に認められた。それまでは症例登録が必要であったが、1000例を超えた。  
自家調剤は行わない。

## II. 協議事項

1. 2020年度予算 外園理事  
収入:昨年とほぼ同じ。  
支出:印刷費は2年分、ホームページ経費は実績に合わせた。  
今回の学会の赤字は特別支出とした。

2. コンタクトレンズによる重篤な眼障害合同調査の分担金 山田理事  
10万円で認められた。

3. 学術奨励賞について 堀理事長(雑質理事)  
学術奨励賞選考細則の変更  
(学術奨励賞の募集)  
第3条 理事長は毎年7月末までに本年の学術奨励賞の応募要領を公示する。公示期間は2ヶ月とする。  
(これまで8月を7月に変更)  
学術奨励賞募集要領の変更  
第4条 締切日  
9月30日(消印有効)  
(これまで10月31日を9月30日に変更)  
選考委員は70歳以下で就任し、4年を限度とする。

4. 2023年学会について  
杏林大学の山田昌和先生が立候補されている。東京以外で行いたいと思っている。  
認められた。

5. 「前眼部形成異常の診療ガイドライン」学会承認の件 山田理事  
厚生労働省の難病班(西田幸二班長)の事業である。  
評議員メーリングリストで尋ねる。締切を決めてほしい。

6. その他  
・アジア角膜学会を今年の12月2日から大阪で行う。  
2日は若手の先生のため。  
3日・4日が本学会  
5日にKCCが開催される。  
・12月5日午後~6日に日本眼科アレルギー学会を福岡で開催する。

新型コロナウイルスについて、を緊急シンポジウムとして行う予定であった。その内容を評議員全員で共有したい。  
四柳 宏先生(東京大学医科研)のスライドを角膜学会のホームページの会員サイトで発信する。  
パブリックに出す情報は日本眼科学会から発信するのがよい。

2019年歳入歳出決算報告書  
[自2019年1月1日至2019年12月31日]

歳入	単位(円)		
科目	予算額	歳入額	予算に比し増減
年会費	11,000,000	10,015,000	+15,000
法人会員会費	950,000	950,000	0
H P 広告料	800,000	800,000	0
雑収入	20,000	79,224	+59,224
利息	1,000	633	-367
歳入小計	12,771,000	12,844,857	+73,857
前年度繰越金	17,204,807	17,204,807	0
歳入合計	29,975,807	30,049,664	+73,857

歳出	単位(円)		
科目	予算額	歳出額	予算に比し増減
担当校へ補助	2,000,000	2,000,000	0
調査研究費	3,000,000	0	-3,000,000
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	1,000,000	12,312	-987,688
会議費	500,000	133,570	-366,430
学術奨励賞	500,000	580,811	+80,811
消耗品費	200,000	119,049	-80,951
通信・発送費	300,000	179,690	-120,310
旅費	500,000	225,031	-274,969
雑費	150,000	112,445	-37,555
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	3,000,000	1,339,060	-1,660,940
羊膜移植講習会	700,000	616,822	-83,178
予備費	400,000	0	-400,000
支出小計	14,586,000	7,654,790	-6,931,210
次年度繰越金	15,389,807	22,394,874	+7,005,067
支出合計	29,975,807	30,049,664	-73,857

日本角膜学会 2020年度予算案

歳入	単位(円)		
科目	2019年度 予算額	2020年度 予算額	差額
年会費	11,000,000	11,130,000	+130,000
法人会員会費	850,000	950,000	-50,000
H P 広告料	800,000	800,000	0
雑収入	20,000	20,000	0
利息	1,000	1,000	0
歳入小計	12,771,000	12,901,000	+130,000
前年度繰越金	17,204,807	22,394,874	+5,190,067
歳入合計	29,975,807	35,295,874	+5,320,067

歳出	単位(円)		
科目	2019年度 予算額	2020年度 予算額	差額
担当校へ補助	2,000,000	2,000,000	0
調査研究費	3,000,000	2,000,000	-1,000,000
外保連会費	400,000	400,000	0
印刷費	1,000,000	1,700,000	+700,000
会議費	500,000	400,000	-100,000
学術奨励賞	500,000	450,000	-50,000
消耗品費	200,000	200,000	0
通信・発送費	300,000	300,000	0
旅費	500,000	500,000	0
雑費	150,000	150,000	0
事務委託費	1,836,000	1,836,000	0
選挙関係費用	0	400,000	+400,000
会計監査料	100,000	100,000	0
H P 経費	3,000,000	1,359,600	-1,640,000
羊膜移植講習会	700,000	700,000	0
予備費	400,000	400,000	0
支出小計	14,586,000	12,895,600	-1,690,400
次年度繰越金	15,389,807	22,400,274	+7,010,467
支出合計	29,975,807	35,295,874	+5,320,067





